

経営企画部 広報課

経営企画部長 山崎 啓嗣

概要

2025 年は法人のブランディング強化に向けた組織変革と新たな連携体制の構築に注力し、次なる成長への基盤を整えた一年でした。

5 月に行われた管理部門の再編により広報課は総務部から経営企画部へと移管されました。この再編は、広報課と企画課が同一部内で緊密に連携し法人ブランドを確立するとともに、一貫性と信頼性の高い情報発信を戦略的に推進することを目的としています。

さらに 7 月には庶務課の設立に伴う人事異動が行われました。組織の専門化が進むなかで広報機能の役割を改めて再定義する契機となりました。

1. 広報関連

院内広報誌「ひろっぱ」をはじめとする多様な刊行物の制作から公式 SNS や動画を活用したデジタル発信まで幅広く行いました。2025 年は情報発信の量とスピードの向上に注力し、2026 年の近森病院設立 80 周年へ向けて法人の価値を法人内外へ一貫して伝えるための基盤を強化しました。従来の紙媒体を中心とした広報に加え、SNS の毎日投稿といった新たな手法を組み合わせることで患者さんや地域の皆さん、そして職員とのタッチポイントを増やすための体制を整えました。

① クラウドファンディング「空の架け橋プロジェクト」の実施

当法人として初となるクラウドファンディングへ挑戦しました。

本プロジェクトの目的は、新棟の建設や本館と北館を繋ぐ空中通路の設置により、津波浸水時でも薬品や物資、患者さんの移動を安全に行える体制を構築することにあります。今回のクラウドファンディングは単なる資金調達的手段に留まらず、地域の皆さんと共に未曾有の災害に立ち向かうための「防災意識の向上」を大きな使命として掲げました。実施にあたって多角的な周知活動を継続的に展開し、その結果地域の方々をはじめ全国から多くの温かいご支援をいただきました。

目標金額の達成を通じて、当法人を支えてくださる「共感の輪」を可視化できたことは、今後の広報活動やブランディングを進める上でも大きな財産となりました。皆さまが力を添えてくださったことに心より深く感謝申し上げます。



A promotional poster for the "Sky Bridge Project" cloud funding campaign. The top left shows a collage of images: medical staff in scrubs, a group of people, and a large wave. The top right features the text "命を救う 高知の 備えが、" (Saving lives, Kochi's preparation). The center has a large blue banner with the text "クラウドファンディング ご支援よろしくお願いします" (Cloud funding, thank you for your support). Below this, it states the goal: "目標金額 1,000万円" (Target amount 10 million yen) and the period: "実施期間 6.2月 ▶ 7.31木" (Implementation period June 2nd to July 31st). A QR code is on the right. The bottom left has the CHIKAMORI logo and the text "高知の命と医療を守る「空の架け橋」プロジェクト" (Project to protect Kochi's lives and medical care "Sky Bridge"). The bottom right has the EINEE logo and "EINEE高知" (EINEE Kochi).



② 院内広報誌「ひろっぱ」

1986年の創刊以来月刊発行を継続している院内広報誌「ひろっぱ」は、2025年で創刊38年目を迎えました。本年においても、第462号から第473号まで、毎月3,500部を安定的に発行しています。「みんなが集まってワイワイと遊んだひろっぱのような情報交換の場を」という創刊時の理念を継承し、職員間はもちろん医療機関の皆さんにとっても閱讀価値が高く、親しまれる媒体として認知されるよう今後も取り組みたいと思います。



③ SNSによる情報発信

情報の即時性と視覚的な訴求力を重視し、SNSを通じた広報活動を推進しました。

なかでも Instagram は写真や動画によって院内の雰囲気やスタッフの様子を直感的

媒体名	フォロワー数	昨年比成長率
Instagram	732	約 283.7%
Facebook	1,297	約 103.6%

に伝えられることから、運用のメイン媒体に据えています。9月からは、情報への接触機会を最大化させるべく、Facebook とあわせて通常診療日の毎日投稿を開始しました。継続的な発信を通じて、当法人をより身近な存在として認識していただくための基盤づくりに取り組んでいます。

④ ホームページ

8月には、ホームページの所管が企画課から広報課へと移管されました。法人のブランディング強化および情報の視認性・利便性の向上を目指し、全面リニューアルに向けた準備を本格化させています。

⑤ 出前講座「ひろっぱ講座」

地域住民の皆さんの医療知識向上や健康増進を目的として、サロン活動や町内会の勉強会、企業向けの職員研修などへ医療専門職を派遣する取り組みを継続しました。

当課は事務局として各講演にスタッフ1名が原則同行し、資料準備や会場設営といった講師の周辺業務をサポートしています。講座での対応を通じて、当法人が持つ専門的な知見を地域へ直接還元し地域社会との信頼関係の構築に繋がるよう努めました。

なお、7月には庶務課設立にともない、本業務の事務局機能は同課へ移管しました。

2. イベント

法人主催の催事や講演会を通じ、地域社会との交流と当会の役割周知に努めています。本年はフォトコンテストや公開県民講座の運営を担い、関係部署との連携により円滑な進行を図れました。

① 近森電車写真コンテスト

2024年11月、当グループのオリジナルデザインを施したラッピング路面電車が8年ぶりに運行を開始しました。これを記念し「近森電車写真コンテスト」を実施しました。県内外より寄せられた計34点の力作の中から、職員投票によって上位5作品を選出。入賞作品については院内広報誌「ひろっぱ」2025年5月号（第466号）の誌面にて発表し、あわせて副賞の贈呈を行いました。



受賞作品一覧

② 第 25 回近森病院公開県民講座

地域住民の皆さんの医療への理解を深め、
当院の役割を周知する活動として、12 月 13
日に第 25 回近森病院公開県民講座「救命救
急の近森病院 その最前線 2025」を開催し
ました。

今回は初の試みとして会場を近森病院管理
棟に設定しました。会場設営や当日の動線
確保にあたっては関係部署の多大な協力を
得て、一丸となった円滑な運営が出来たと
思います。

当日の講座では救命救急センターの運営
実績をはじめ、心臓・脳卒中治療の最前線、
連携搬送の実際について、各専門医や看護
師が講演を行いました。

救命救急センターという当院の役割を知っていただき地域の方々が安心して暮らす
ための情報を共有しました。



③ 地域医療講演会

「地域医療講演会」においても、これまでと同様に関係各所と緊密に連携し円滑な会
場運営に努めました。なお、7 月の庶務課設立により、現在は同課へ運營業務の引き継
ぎを行っています。

	講演名	開催日	講師
第 177 回	高齢者のてんかん治療	1 月 31 日（金）	国立病院機構茨城医療センター 院長 高橋章夫 先生
第 178 回	フォーミュラって何？	3 月 13 日（木）	札幌薬剤師会手稲支部長 澤田博文 先生 札幌市医師会手稲区支部長 医療法人溪仁会理事長 成田吉明先生
第 179 回	心臓血管ウェットラボ	11 月 9 日（日）	—
第 180 回	緊急 ACP ～救急・集中治療の現場で の意思決定支援～	12 月 3 日（水）	帝京大学医学部准教授 Acute Care Surgery 部門長 伊藤香先生



3. 外部メディア対応

当法人の取り組みや専門的な知見を広く社会に共有し公的な信頼性を高めるため、外部メディアを通じた積極的な情報発信に取り組みました。

① プレスリリースの発信

情報の即時性と発信の継続性を高めるため、プレスリリースの様式を刷新するとともに外部サービスの併用による情報発信の体系化を進めました。

当部内、企画課の担当する「高校生進路発見セミナー」や「病院薬剤師体験」など次世代育成支援の広報にも注力するとともに、クラウドファンディング等の重要施策についても周知を図りました。その結果、県内各メディアや医療専門メディア「m3.com」での特集掲載などに繋がり、取り組みを多くの方々に知っていただくことが出来ました。

② 取材対応

新聞、テレビ、および医療系 Web メディア等の取材に対し、広報課が窓口となって各部署との円滑な調整を行いました。特に災害対策や救命救急の現場に関する取材では、医療の実態を丁寧にお伝えできるようにハンドアウトの準備などにも力を入れました。メディアを通じた発信が、地域住民の皆さまや全国の医療関係者の方々に届き、当法人の取り組みを少しでも深く知っていただくきっかけになればと考えています。

プレスリリース 配信件数	13 件
取材件数	32 件
主な取材実績	● WEB メディア m3.com 「南海トラフ地震を『生き残る』ために。高知・近森病院に聞く」など ● NHK 松山放送局 NHK 総合「巨大地震シミュレーション 四国緊急対策室 四国らしんばん「四国採用戦線異常あり～人手不足解消の秘策は～」 ● 高知新聞 ● 読賣新聞 ● KUTV テレビ高知 ● RKC 高知放送 ● 高知さんさんテレビ など

4. 人材育成・教育関連

階層別研修や評価者研修の運営および「近森会グループ学術集会」の事務局業務を担いました（詳細は人材育成委員会年報を参照）。また、接遇向上に向けた「ANA 医療現場接遇研修」の実施に向けた調整や兵庫医科大学 井上正隆先生による統計支援の窓口業務など、様々な支援を行っています。

なお、組織再編に伴う所掌見直しにより、人材育成・教育関連業務は総務課人事担当へと移管予定であり、現在引継ぎ、業務整理を進めています。

5. 病院見学・職場体験受入

他院や関係機関からの見学受入れ、および学生の職場体験における窓口業務についても、各部署と連携しながら担当しました。

本業務についても今後は庶務課へと移管予定です。これまでの対応実績やノウハウを確実に共有し、引き続き良好な外部リレーションが維持されるよう努めたいと思います。

8. その他業務

- ・「近森病院からのホットライン」発行(月1回) ※2025年9月より休刊
- ・「近森病院地域医療連携ガイド 2025年版」発行(年1回)
- ・「訪問看護ステーションちかもり ステーション通信ささえ」発行(年2回)
- ・「入院生活のごあんない」更新(年2回ほか必要時)

上記以外の単発で依頼を受けたポスターやチラシ制作は割愛します。

7. 人員配置について

5月	北川 真也 課長代理	異動 (総務部広報課→経営企画部広報課)
	岡崎 千沙	異動 (総務部広報課→経営企画部広報課)
	小松 美紀	異動 (総務部広報課→経営企画部広報課)
	岩神 美紀	異動 (総務部広報課→経営企画部広報課)
	古川 立音子	異動 (総務部広報課→経営企画部広報課)
	高橋 有佐 (受付担当)	異動 (総務部広報課→経営企画部広報課)
	武村 由美 (ひろっぱ講座担当)	異動 (総務部広報課→経営企画部広報課)

7月	高橋 有佐 (受付担当)	異動 (広報課→庶務課)
	武村 由美 (ひろっぱ講座担当)	異動 (広報課→庶務課)
	北川 真也 課長代理	退職
	小松 美紀	退職

8月	前野 さくら	異動 (経営企画部企画課→広報課)
----	--------	-------------------

9月	片山 百合子	入職
----	--------	----

昇格について

8月	前野 さくら	広報課主任
----	--------	-------